

第36回「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」結果概要

○日 時 令和5年3月24日（金）午後2時50分～午後4時05分

○場 所 栃木県産業会館 8階大会議室

○内 容 1 開 会

2 あいさつ（森本委員長）

3 報 告

- ・ 駅東側の取組状況について
- ・ 「（仮称）都心部まちづくりプラン」中間取りまとめと都心部における拠点形成に向けた施策展開について

4 議 題

- ・ 需要予測の取組について

5 そ の 他（情報提供）

- ・ LRT副停留場名称のネーミングライツなど市民協働の取組について

6 閉 会

【会議結果】

4 議 題

- ・ 需要予測の取組について

【各委員，了承】

【主な発言の要旨】

3 報 告

(1) 駅東側の取組状況について・・・資料1

【事務局】

- ・ 資料1説明

【各委員，意見等なし】

(2) 「（仮称）都心部まちづくりプラン」中間取りまとめと都心部における拠点形成に向けた施策展開について・・・資料2

【事務局】

- ・ 資料2説明

【中尾委員】

- ・ 1点目として、現在の公共交通の利用状況を見ると、中心部が寂れてしまい、郊外の発展が顕著であるため、若い方々が無料バスで郊外に行ってしまう、都心部に若い人たちが集まることができない非常に寂しい街になって来ていると感じている。
- ・ 電車、バスが有効利用されて、健全経営を図るためにも、魅力ある都心部にしていきたい。そして、多くの方がまちを訪れる求心力のある都心部のまちづくりプランが望まれる。
- ・ 商店街の経営もバス、電車の公共交通の経営も一緒だというふうに思っているので、ぜひ魅力ある都心部を作っていただきたい。
- ・ それから4ページ、人中心のウォカブルなまちの姿ということで、ウォカブルという言葉がいろいろと出てきているが、5ページの方では、歩きたくなる街路空間の形成ということで、人を歩かせる街にしようという思想になっているが、人が歩くばかりだと、電車、バスの利用者がなかなか増えない、逆行をしてる政策じゃないかなと感じる。その中で、歩くのも楽しいが、公共交通で目的地に快適に行ける。そういった、公共交通も含めたウォカブルなまちづくりとは、というものを考えていただきたい。
- ・ また、4ページのイメージ図の中で、将来、西側へのLR Tの延伸とかバスがどこを走るのか、実態と構想のイメージがかけ離れており、これでは、将来的な新しい交通のまちづくりが考慮されていないように思うので、ウォカブルなまちづくりとの整合性をどのように図ったまちづくりをしていくのか、よろしくお願ひしたい。

【事務局】

- ・ このプランにおいては、街なかが一つの目的地と見立てており、公共交通で来ていただき、現在、社会実験を行っているシェアサイクルであったり、徒歩であったり、街なかを回遊できる仕組みについて、公共交通と一体となったまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。引き続き、ご指摘いただいた点も踏まえながら検討していきたい。
- ・ 4ページのイメージについては、特定の路線をイメージしたものではないが、大通り等については、関心の高いものだと思うので、今後の事業の進展等を踏まえながら、わかりやすくイメージできるものが追加できないか、検討して行きたいと思う。

【中尾委員】

- ・ 歩きたくなる街路形成について、現在の歩道の状況を見ると、宮の橋を渡ってから、本町あたりまで相当数の方々が歩かれている。

- ・ あれだけのバスの便数があるにも関わらず、バスに乗らずに歩いているということは、駅西側にLRTが導入されても、乗っていただけないのではないかと考えている。
- ・ これには、歩く方が時間的にも費用的にも優位であるというような、様々な理由があるはずである。今後、西側への延伸については、歩行者がどういう目的で歩いているのかというところをしっかりとPT調査などしていただかないと、我々の今後の収支経営予測が大きく狂ってくるということになってしまうので、是非、この点もよろしくお願ひしたい。

【森本委員長】

- ・ 貴重なご意見という形でお受けをしておきたいと思う。

【行政アドバイザー】

- ・ 資料を拝見して、特に11ページ目の公共貢献のメニューのところであるが、歩きたくなる街路だったり、空間、街なかだったり、確実に休める場所というものが必要であると思う。
- ・ JR宇都宮駅東口の素敵な広場ができて女子高生や若い人たちがどんどん来て、滞留している姿が見受けられるようになっている。やはり買い物するだけではなく、街に佇めるような場所が必要だと思うので、公共貢献のメニューの中でも、休める場所として、ベンチの設置などもメニューに入れてもらいたい。
- ・ プランの特徴のところいくつか街路の機能として、歩行機能と、車の機能という様な書かれ方をしていたが、滞在のことに関しても意識して作り込んでいったらよいのではないかと思う。

【森本委員長】

- ・ こちらもご意見ということでお受けする。

4 報 告

- ・ 需要予測の取組について・・・資料3

【事務局】

- ・ 資料3説明

【中尾委員】

- ・ 7ページの最後の行について、宇都宮駅西側への延伸を望む意見もあったということだが、どの程度の意見があったのか、わかるなら教えてもらいたい。
- ・ 都合が悪ければまた後日、個別に教えてもらいたいと思うのだが、要するに、一貫通貫を皆さん望んでおられるのか、そうではないのか、その辺の傾向を知りたい。

【事務局】

- ・ 割合などのデータについては、手元の方に持ち合わせていないが、駅西側の企業から、そういう声があったということである。

【森本委員長】

- ・ いずれにせよ、データが上がってくると、いろいろ詳しい分析ができると思いますので、中尾委員からのご意見、ご質問を踏まえながら調査を進めていきたい。

【行政アドバイザー】

- ・ 通勤時点でどういう行動変容が期待でき、そこをどう利用させるかが非常に肝になってくるものと思っている。
- ・ 国道事務所においては、現在、職員の公共交通の通勤として認めているのがバスであり、駅からバスが通勤費の中でカウントされているようだが、LRTも通勤費のカウントが考えられ、かつ、国道事務所への来客の方も二つ目の停留場である駅東公園前で降りていただいて、7分ぐらい歩いていただくということになれば、そういう取り組み一つ一つが広がっていくことで、需要予測は上振れしてくる可能性もあると思うので、その辺の考え方もあわせて、このアンケートもしくは調査結果が出てきた時点で知見のある先生方のご意見をいただきながら、交通行動変容という視点も含めて考えていただくようお願いする。

【事務局】

- ・ 現在、アンケートの解析等を行っている状況である。今後、結果を報告する中で、先生方や本委員会においても議論いただければと思う。

【行政アドバイザー】

- ・ 西側で、一番重要なテーマと思っているのがバスとの役割分担である。

- ・ 今までバスを利用していた方がLRTにどのように乗り換えるのか、LRTの場合は、どうしても一気通貫で出発地から目的地までという状況にはないので、乗り換えという抵抗が入ってくることを考えてしまうと、バスからLRTへの転換というのが図られないということも想定されるものですから、その辺を加味した需要予測をしていく必要があると思っている。

【森本委員長】

- ・ バスの需要予測とLRTの需要予測は基本的にはモデル上は同じとなっている。
- ・ 時間短縮便益という形で計算している。
- ・ ただ一方で、LRTでは定時性が担保できていることなど、そういったバスとLRTの違いを次のモデルの中には、ぜひ組み込んで、LRTの特徴を出すような予測をやっていただきたいし、私もそういう形でお手伝いするつもりですので、ぜひご検討いただければと思う。

【行政アドバイザー】

- ・ 委員長のおっしゃったことに関しては、来客の方でLRTのポスターを見て、LRTは定時性が高いし、運行頻度が高いので、そちらを使えば少し便利になるんじゃないかということを行っている方もいらっしゃったので、まさしく、おっしゃった所の定時性だとか運行頻度だとかというのは、需要に直結するのだと思う。

【望月委員】

- ・ 8ページにあるが、宇都宮の今回調査の対象になった事業所が、在宅勤務について積極的に採用してるところが少なかったということだと思うが、これから東部の方で、乗っていただくことを想定するときには、影響力のある大規模な事業所はどうかというのを量で見えていくことが、必要だと思っている。
- ・ そこを見ても、在宅勤務の割合が、それほど多くないということであれば、コロナの在宅で通勤が減るという影響を少し削減した形で、今回の需要予測を行うことは差し支えないと思う。
- ・ それから、今あった話は、電停を降りてから目的地までの距離のことだと思うが、徒歩移動がトータルで、他の交通手段に比べてどれだけ魅力があるかに尽きると思う。
- ・ 競合がタクシーになると思うが、電停から目的地までどういう形で移動するかというところをトータルで考えないといけない。今後、エリア内の二次交通をどうするかみた

いな話とトータルで考えていくとか、あるいは、それを利用するのであればトータルの料金をどうしていくかなどを考えていければと思う。

- ・ あと、定期代でバスとの競合は確かにあるので、LRTの料金設定を考えるときに、定期代をどの位に設定するかということも需要予測との関連があると思うので、検討していただくことが大切である。

【中尾委員】

- ・ 我々、会社にとっては、その二次交通をうまく利用して目的地に行っていたら、これが非常に乗り換え抵抗も少なくスマートにできますと、LRT利用者が増えると思っている。
- ・ 宇都宮市に各電停ごとに駐輪場を必ず設置してほしいということで、今工事をやっていたらいい。
- ・ 将来は、工業団地内だったら道路整備もきちんとできているので、自動運転バス、これらをやって電車の10分ヘッドのダイヤに、自動運転のバスを10分で行けば運転士がいらないという時代になっていくと思うが、できるだけ早く、清原地区のスーパースマートシティの一環として自動運転バスを取り入れることを、是非、ご検討いただきたい。

【森本委員長】

- ・ 他に、ご意見がなければ、重要なお意見をいただきましたので、この内容で了承いただいたということによろしいか。

【各委員，了承】

5 その他（情報提供）

- ・ LRT副停留場名称のネーミングライツなど市民協働の取組について・・・資料4

【事務局】

- ・ 資料4説明

【各委員，意見等なし】

【森本委員長】

- ・ 最後に事務局から連絡事項などがあればお願いします。

【事務局】

- ・ 次回の検討委員会については、後日、改めて案内させていただく。

【事務局】

- ・ 以上で、本日の会議を終了する。